

研究主題 「共によりよく生きる児童を育む道德教育の充実」

～オープンマインドタイムを活用した授業作りを通して～

1. 主題設定の理由

昨年度、本校では研究主題を「自己の生き方についての考えを深め、共によりよく生きる児童を育む道德教育」とし、研修を進めてきた。

はばたく群馬の指導プランⅡには、「“道徳的諸価値について理解する。自己を見つめる。物事を多面的・多角的に考える。自己の生き方について考えを深める。”ことを通して、道徳性を育てる教科」とある。

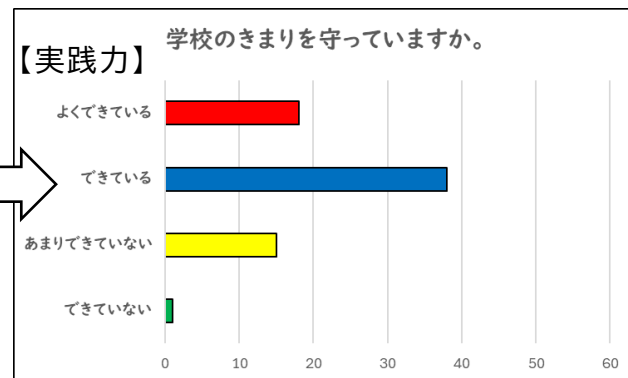
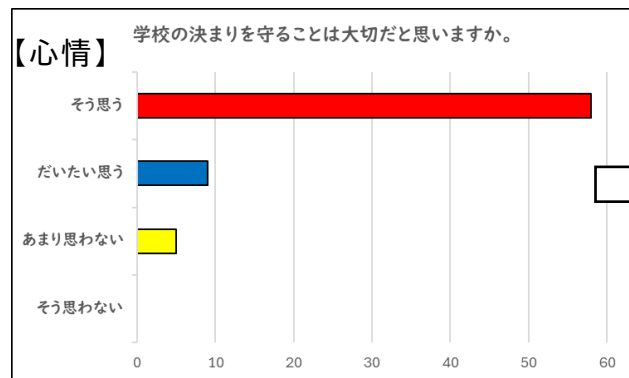
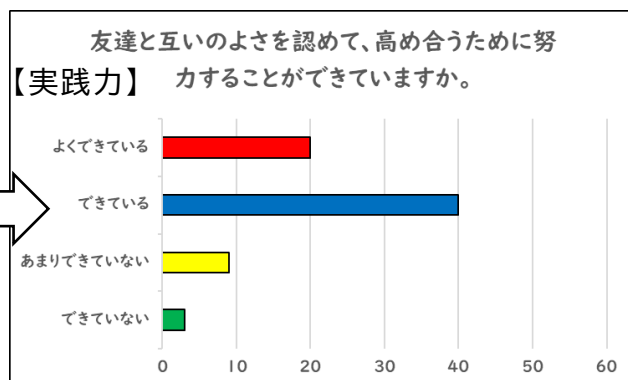
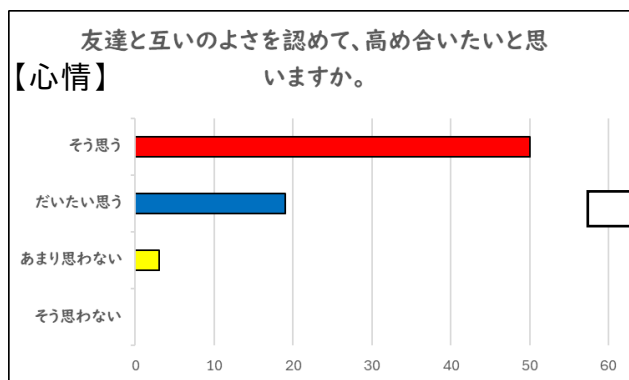
そのために、常に自己を見つめながら、他者とともに多様な視点から話し合うことを通して自己のよりよい生き方を考えていく、「考え、議論する道徳」の授業を実践していくことが大切であると考えた。

(1) 児童の実態

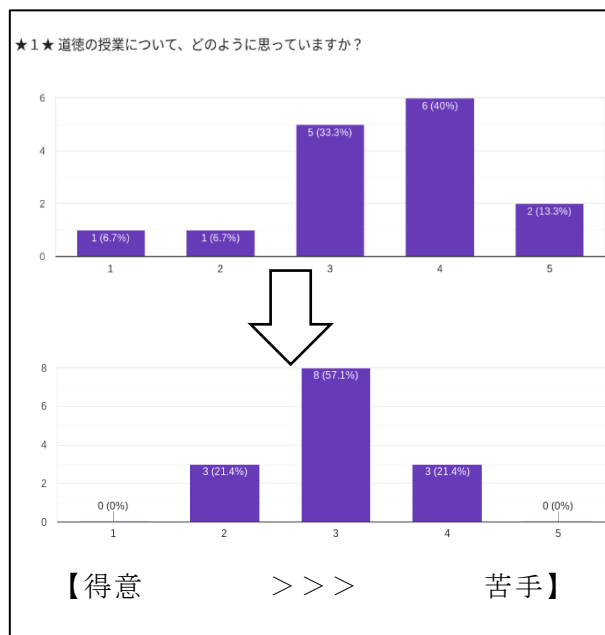
内容項目に合わせた心情とその実践力を問うアンケートを実施した。

例えば、「友情信頼」に関する内容では、「友だちと互いのよさを認めて、高め合いたいと思いますか。」（高学年向け）という心情についての質問をした。同内容の実践力を問う質問は、「友だちと互いのよさを認めて、高め合うために努力することができていますか。」とした。

結果を見ると、「友情信頼」だけではなくほとんどの項目において、実践力を問う質問にで、できていない方向に傾いていた。思っていたり理解していたりしても、実践には移せていない児童が多いことが分かった。



(2) 教師の実態

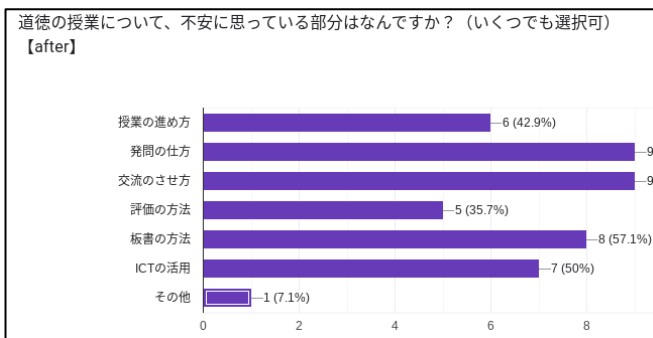


「道徳の授業」での不安要素は、発問や交流のさせ方などが挙げられる。

昨年度の校内研修で行ったアンケート結果を見ると、「道徳の授業」について苦手意識をもつ教師が多かった。

そこで、外部講師を招聘し、「道徳科の基礎・基本」と題した、演習を交えての研修を行った。

研修後のアンケートでは、苦手と答えた教師が少なくなったが、未だ苦手意識を拭いきれてはいない。



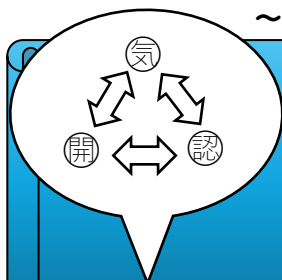
以上のことから、児童の道徳的実践力を育てるために、教師の道徳を中心とした授業力を高めることで、全教科での授業改善を図ることを目指し、今年度の研究主題を「共にによりよく生きる児童を育む道徳教育の充実」、副主題を「オープンマインドタイムを活用した授業作りを通して」とした。

2. 研究のねらい

全教科において、「オープンマインドタイム」を活用した授業改善を行うことで、自己開示したり、他者を受け入れ自分とは違う意見や考えを認めたりすることができる、「共にによりよく生きる児童」の育成を目指す。

3. 研究主題について

「共にによりよく生きる児童を育む道徳教育の充実」 ～オープンマインドタイムを活用した授業作りを通して～



<目指す児童像>

開 く・・・ 建前なく、本音で意見を表現（自己開示）できる。

認 める・・・ 自分も他者も、意見等を認めることができる。

気 付く・・・ 自分も他者も、長所や意見の良さに気付くことができる。

共にによりよく

「開く」「認める」「気付く」が相互に関連することで、自己肯定感・自己有用感を高めることにつなげたい。

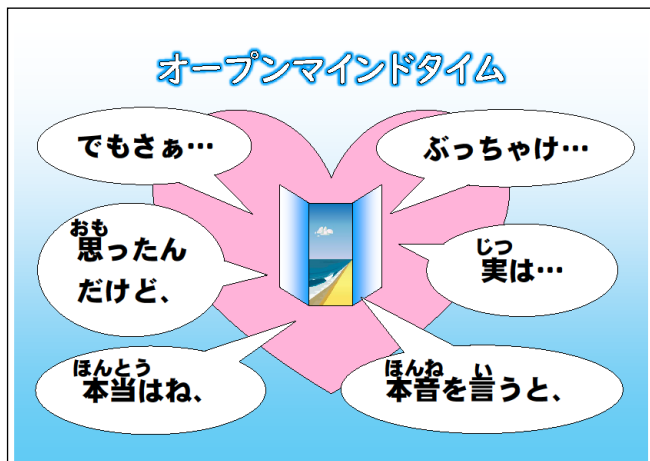
4. 研究の内容

(1) オープンマインドタイムを活用した授業作り

児童の本音を引き出すために「オープンマインドタイム」を設定し、授業の工夫を図る。オープンマインドとは、「心が開かれている状態」である。例えば、自分をさらけ出して、他人を受け入れる心、自分とは違う意見や考えを認める姿勢のことを指す。

東小 ver. 定義

自分の本音をありのままに話し、他者を認める心



全教科で「オープンマインドタイム」を取り入れるために、掲示物等で意識できるようにする。



(2) 道徳ノート

内容項目の4つの視点別にインデックスを作ってファイリングし、振り返り等で活用できるようにする。

各学年で児童の実態に合わせたワークシートを作り、学年で使いやすいように工夫を加えられるようにする。

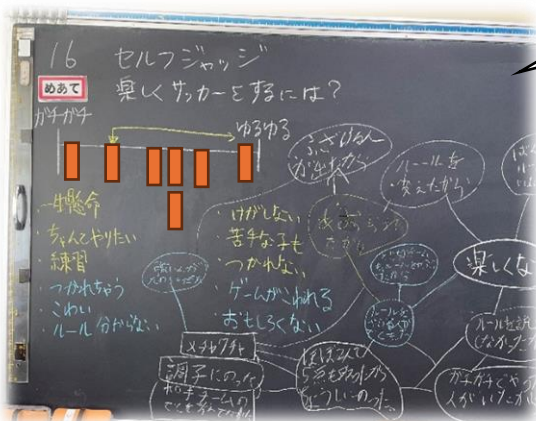
ワークシートを蓄積していくことで、家庭に持ち帰り、保護者との連携も図れるようにする。



5. 研究実践

(1) オープンマインドタイム

< 5年「きまりは何のため」 >



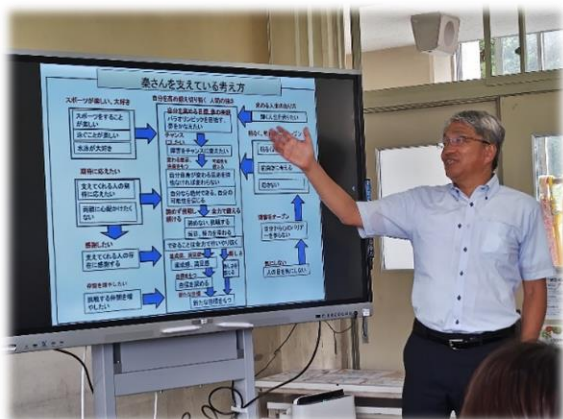
◎正直「ガチガチ」と「ゆるゆる」のサッカー、どちらがいい？

- ・ネームプレートを貼って、意見の可視化をした。
- ・理由をオープンマインドで自由に語り合った。

◎ぶっちゃけ、同じような気持ちになったことがある？

- ・オープンマインド後、自分を振り返る場面で深く考えた。

(2) アドバイザーの招聘



R 5

- ・講義：道徳科の授業づくりのポイント
- ・演習：子どもの立場で徹底的に考える

R 6

- ・演習：公開授業と同じ学年、内容項目の資料
- ・講義：道徳科の授業づくりのアドバイス
- ・模擬授業参観、指導・助言
- ・プレ授業参観、指導・助言

○久保 信行先生

○紺谷 正樹先生

(群馬大学共同教育学部附属教育実践センター)



6. 成果と課題

<成果>

- ・オープンマインドタイムを設定したことで、児童が自分自身に問い返し、課題を自分事として捉えることができるようになってきた。
- ・オープンマインドタイムで「自分ならどう思うか、本当はどう思っているのか」を考えるため、早めに資料から離れることができ、一人一人の考えを深めることができた。
- ・「自分の本音をありのままに話していい」ことを、掲示物を使って確認することで、本音を言おうとする意欲が高まった。
- ・教師の本心や本音を話してから、児童に発表させることで、本音を出しやすい雰囲気を作ることができた。
- ・付箋、シンキングツールなどを使って、場を設定することにより、オープンマインドしやすい環境を作ることができた。
- ・家庭を巻き込んだオープンマインドの実践として、保護者の本音を引き出す取組を行った。

<課題>

- ・高学年では、自分自身のことは開示しやすいが、他者との関わり関する自分のことになると、周りの目が気になってしまい、本音が出しにくい雰囲気になってしまった。
- ・中学年では、自分の事を開示することに抵抗感がなく、様々な考えが出るが、他者の考えを認められず、短所を指摘してしまう児童がいる。
- ・低学年では、自分事として考えることが難しい。一般的に良いと思われる意見に流れてしまい、本音を聞くための問い返しをしても、意見を変えることが難しい。